



エコアクション21
認証・登録番号0000002

平成31年
1月
(隔月発行)
No.237

本社 〒120-0005 東京都足立区綾瀬5丁目24番5号
☎ 03(3606)0119 FAX 03(3606)3339
城南営業所 〒143-0015 東京都大田区大森西5丁目1番25号
☎ 03(3765)6660 FAX 03(3765)6665
松戸営業所 〒270-2231 千葉県松戸市稲台7丁目7番地の1
☎ 047(366)2800 FAX 047(366)2803
柏営業所 〒277-0832 千葉県柏市北柏4丁目1番15号
☎ 04(7167)3883 FAX 04(7164)0120
横浜営業所 〒232-0053 神奈川県横浜南区井土ヶ谷下町28-15
☎ 045(315)4001 FAX 045(315)4091
島根営業所 〒696-0003 島根県邑智郡川本町因原519-3
☎ 0855(72)0324 FAX 0855(72)2076

<http://www.119suehiro.co.jp>

横浜営業所



島根営業所



柏営業所



城南営業所



松戸営業所



本社

新年明けましておめでとうございます

皆様方におかれましては、良い新年を迎えられたことと存じます。昨年は豪雨、地震台風と自然災害の多い年でございました。被害に遭われた方も多くおられ、心から悔やみとお見舞いを申し上げます。

今年は、改元が予定されていることでもあり、どうか平穏な年になる事を願っております。

さて弊社は1月16日に創立55周年を迎えます。多くのお客様を始め仕入先、各方面の皆様方のお力添えを頂き、業務を行って参りました。

今後も皆様への感謝の気持ちを忘れずに、全社員心ひとつに邁進する所存でございます。

どうぞ今年もよろしくお願い申し上げます。

平成31年元旦

株式会社 スエヒロ

代表取締役社長 道畑 仁志



新年明けましておめでとうございます

2019年 元旦



2019年は亥年です。亥とは、干支（十二支）の12番目で、年・日・時刻などにあてます。方角は北西からやや北寄り、時刻は今の午後10時を中心とする約2時間を指します。陰暦では10月の異称で、新暦ではおおむね11月。五行では「水気」、陰陽では「陰」になります。亥は、草木の生命力が種の中に閉じ込められた状態を表しているとされます。後に覚えやすくするため、動物の「猪」を割り当てられました。ちなみに猪の字は中国ではブタを意味します。

イノシシといえば“猪突猛進”。亥年は何といっても「情熱的な行動力」がキーワードに。人生に向かって戦いを挑む！ 目標に向かって突き進む！ 力強く積極的に飛躍する年にしたいですね。そこで、この亥年に参拝するのにふさわしい亥（猪）に関係が深い社寺を紹介しましょう。

イノシシといえば、和気清麻呂のエピソードが思い起こされます。奈良時代、弓削道鏡は、称徳天皇の寵愛を受け法王にまでなり、さらに皇位を望むようになりました。折しも、「道鏡を皇位につければ国平らかならん」との宇佐神宮の宣託があったと道鏡が主張。天皇は、和気清麻呂に宇佐神宮へおもむき真偽を確かめるよう命じました。結果、宣託は嘘と分かり、道鏡の野望は阻止されました。

怒った道鏡は、清麻呂を大隅国へ追放し、追手を出します。途中、清麻呂は追手に足の腱を切られ歩行困難になりますが、突如、300頭もの猪の群れが現れ追手を追い払い、和気清麻呂を警護しながら道を進み、清麻呂は無事に宇佐八幡へ着き、お礼参りをすることができました。

清麻呂は学問や交通安全、足腰、建築、護国の神として信仰され、清麻呂を祀る護王神社や和気神社などには、猪が霊猪（神使）とされ猪像が置かれています。また、清麻呂が愛宕山に創設した愛宕神社の神使も猪とされています。

その清麻呂と和気広虫姫命（清麻呂の姉）を祀ったのが「イノシシ神社」の別名で親しまれている京都・上京区の護王神社。境内には阿吽一対の猪像があり、この猪は旧拾圓札の図柄になっています。



護王神社

戦国時代に武将の間で守り本尊・戦勝の神として信仰されたのが摩利支天。この摩利支天像は、三面六臂で弓矢などを持ち、走駆する猪に乗る像が多く、乗っている猪が神使（眷属）とされています。

摩利支天を祀るお寺といえば、京都・上京区の本法寺。摩利支天尊天堂の前に神使の猪像一対があります。同じように京都・東山区の建仁寺禅居庵摩利支天堂、京都・左京区の南禅寺聴松院にも猪像が置かれています。

山岳修行の愛宕信仰も猪と関係が深く、愛宕神社の神使は猪です。全国約900社を数える神社の本社が京都・右京区の愛宕神社です。神社の創建者である和気清麻呂が猪に助け



愛宕神社本社の猪像

られた故事にちなむとされますが、愛宕山は、京の戌亥＝西北の方角にあるので「亥＝猪」とされたようです。

この愛宕神社、首都圏では栃木県日光市内にいくつかあり、石屋町の愛宕社（八坂神社）、鉢石町の愛宕社、瀬尾の愛宕神社、所野の愛宕社などにいずれも猪像がありますので、この正月には足を運んではいかが。

この他、滋賀県の最高峰伊吹山にはヤマトタケルが会った「牛のように大きな白猪」を祀った猪像があります。兵庫県洲本市の先山千光寺は、藤原豊広が千手観音の化身の猪を弓で射てしまい、驚いた豊広が仏門に入り、ここに観音像を祀ったというお寺で、本堂の前に一対の猪像があります。また、茨城県水戸市の水戸八幡宮は、御祭神の応神天皇、神功皇后が戌年、亥年生まれと伝えられ、これを受けて拝殿前に左に猪、右に犬の像が置かれています。



愛宕神社の絵馬



旧拾圓札の表には和気清麻呂と護王神社、裏には亥の図柄

2019年はこちら!?

キーワードは「ソーシャル・プラス」

博報堂生活総合研究所の生活者が選ぶ「2019年ヒット予想」。キーワードは、【ソーシャル・プラス】。改元や消費税増税といった大きな時代変化を控えているためか、世の中の基盤を、未来に向けてアップデートしてくれる商品・サービスに関心が集まっています。

同研究所では4つの【ソーシャル・プラス】をあげています。

■世の中の“動く”に安全性をプラス=いま、あおり運転や事故が社会的に注目されるなか、客観的な映像を記録できるドライブレコーダー（1位）や自動運転システム搭載車（5位）が上位に。また、ドローン（2位）は人の行けない場所に荷物を運べ、宅配ボックス（4位）は不在で

も荷物を受け取れる点に注目されています。

■世の中の“動く”に柔軟性をプラス=フリマアプリ（6位）を副業（12位）のひとつとして捉える声もあり、柔軟な働き方への関心が高まっています。小売店の人手不足解消の無人店舗（27位）に注目の声も多く、他人の手間=ひとてまを減らす商品・サービスが支持されています。

■世の中の“住む”に利便性をプラス=高齢者のみの世帯や共働きで不在がちな家庭に、便利で快適な暮らしを提供するテクノロジーが注目されており、音声アシスタント（9位）や時短家電（11位）、IoT（13位）などの商品・サービスが支持されています。



ドローン

2019年ヒット予想ランキング

- 1 ドライブレコーダー
- 2 ドローン
- 2 ワイヤレスイヤホン
- 4 宅配ボックス
- 5 自動運転システム搭載車
- 6 フリマアプリ
- 7 VR（仮想現実）
- 8 QRコード決済
- 9 音声アシスタント
- 9 レジなし店舗
- 11 時短家電
- 12 副業
- 13 IoT（Internet of Things）
- 14 おひとりさま専用サービス
- 15 インスタ映え
- 16 スマートホーム
- 16 電子書籍
- 18 スマートリモコン
- 18 見守りサービス
- 20 eスポーツ
- 20 がんゲノム医療
- 20 シェアサービス
- 23 SNSショッピング

亥年

自然災害が多く起こった亥年

1707年=富士山大噴火 1995年=阪神淡路大震災

過去、亥年にはどんなことが起こっていたのでしょうか。調べてみると、いろいろと怖い出来事が起こっていますが、特に注目されるのが地震や火山の噴火など自然災害が多発していることです。そこで、この二つに焦点を絞って見ていくことにしましょう。

まず、江戸時代の1707年に富士山が大噴火（宝永大噴火）。平安時代に二度起きた大噴火とあわせて、“富士山三大噴火”といわれています。この噴火で江戸の市中まで火山灰が積もったといわれています。富士山の中腹がえぐられたようになっているのは、この宝永大噴火によるものです。

そして、1779年には桜島の大噴火（安永大噴火）。これも文明大噴火（1468年）、大正大噴火（1914年）とともに、桜島の最も大きな噴火のひとつです。燃島など8つの島がこの時できました。

明治以降では、1923年（大正12年）の関東大震災が記憶に残る出来事です。死者・行方不明者10万5000人余、避難人数190万人以上という未曾有の大惨事となりました。

以後、1983年（昭和58年）には日本

海中部地震、同じ年に三宅島の噴火と大災害が続きます。そして、前回の亥年である1995年（平成7年）に起きたのが阪神淡路大震災です。これは説明不要でしょう。

海外に目を転じて、亥年には地震や噴火が頻発しています。1755年、ポルトガルリスボン大地震が発生。マグニチュード推定9と観測史上最大級の地震といわれ、リスボンを中心に津波による死者は8万人にのぼったと記録されています。1815年にはインドネシアのタンボラ火山の噴火。この噴火は有史以来、世界で最大の噴火とされています。

2019年の“予言”

ノストラダムスによれば、2019年は地球環境や経済、生命などが繁栄するための“調整の年”とか。つまり、悪いことが起きたとしても、それは、今後のための土台を整えるきっかけということ。

近年、わが国では地震や台風、集中豪雨などの自然災害が頻発しています。今年、これらの災害が起こっても、それを克服するための「対策の年」としたいですね。

亥（猪）についてのことわざ

亥（猪）についてのことわざ・慣用語・格言を紹介します。猪といえば「猪突猛進」がまず思い浮かびますが、その他となると一般によく知られていないものが多いようです。

【猪見て矢を引く】事が起こってあわてて対策を講じること。

【山より大きな猪は出ぬ】入れ物より大きな中身などあり得ないたとえ。また、大げさな言い方もほどほどに、ということ。

【遼東の豕】世の中で知られているようなことを自分だけが知っていると思い込んで得意がることのたとえ。豕は猪の古称。また、豚のことをいう。

【豕を抱いて臭気を忘る】自分の欠点や醜さは自分ではなかなか気づかないもののたとえ。

【猪も七代目には豕になる】猪ですら年月を経て豚になるのだから、長い年月をかければどのようなものでも変化するということ。

【馴染みでは猪の子も可愛】どのようなものでも、近くにいて慣れ親しむと情が移ってかわいく思えるということ。

【しし食った報い】悪事を働いた後には受けなければいけない報いがあるということ。

迎春

明けましておめでとうございます
旧年中は
大変お世話になりました
今年もどうぞよろしく
お願い申し上げます

平成31年 元旦

感謝

おかげさまで創立55周年



横浜営業所



島根営業所



柏営業所



松戸営業所



城南営業所



本社